信濃毎日新聞 PR 特集

松本深志高校 創立140周年

自治の大旗翻へし

形のない「心」を受け継いでいくには、
それが何であるのか、
とことん考え抜かなければならない。
松本深志のアイデンティティー「自治の精神」は、
そうやって受け継がれてきた。
考え抜くことは、一人一人の深志生の礎になり
広い世界へ羽ばたく力になった。
そして今も、深志生はその精神を先輩に学び、
後輩に伝える。
創立140年、
歴史は続いていく。
校章のトンボがまっすぐに見詰める未来へ―

［140周年ロゴマーク］ 深志55回卒の下枝弘樹さんのデザイン。140thの文字をデフォルメし、トンボが枝にとまり、羽を休め、次なる未来を見据えている様子を表現しています。

140th

MATSUMOTO FUKASHI ANNIVERSARY

松本深志高校創立140周年 ご挨拶

松本深志高等学校 PTA会長　上條 栄規

自治の精神とともに歩みを続けてきた松本深志高校が140周年という記念の年を迎えました。その長い歴史と伝統のもと、生徒たちはそれぞれの自己実現に向けて今も互いに切磋琢磨しています。恵まれた環境の中、子どもたちが勉学や部活動、そして生徒会活動に充実した日々を過ごすことができますのも、学校の発展に尽くされた皆様のご努力のおかげと心より感謝申し上げます。

松本深志高校が飛躍し続けることを祈念しつつ、PTAとしましても、同窓会や地域の皆様と協力してより良い環境作りに尽力して参ります。今後とも温かいご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

松本深志高等学校 同窓会長　井上 保

本年、創立140周年を迎えるにあたり、10月15日の記念式典に始まり、多くの記念事業を行います。これも先輩各位、また、同窓生、PTAの皆さん、学校側の暖かいご支援のもとに行われることにまずもって感謝を申し上げます。

同窓会ではこの創立140周年という節目の年に、改めて先輩の築いたこれまでの歴史と伝統を検証し、10年後の150周年に向けて継承していかねばと気持ちを新たにしております。歴史、伝統を築くということは、その時、その時代に立ち合い、関わった者たちが「自治」の精神のもとに進化していくものだと思います。

若い同窓生諸君、特に現役の深志高校の生徒諸君は、創立140周年に立ち合い、巡り合わせた自分の立場を想う時、次へ繋いでいく使命を感じて欲しいと思います。

松本深志高等学校 学校長　小口 俊幸

創立140年の記念すべき年を迎え、ここに盛大に記念式典を挙行できますことは、学校としてこの上ない慶びであります。ここまで本校を支えてくださいました地域の皆さまを始め、関係各位に衷心より感謝を申し上げます。

この間、同窓の皆さまが、国の内外を問わず各界各方面で活躍されておりますことは誠に心強い限りであり、現役の生徒たちにとりましても大きな励みとなるものであります。

生徒たちが、よき伝統の上に深志での学びを通じて、自分の持ち味をいかに世の中のために発揮するかを問いながら未来に踏み出していくことができるよう、職員一同全力で取り組む所存でおりますので、変わらぬご指導とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

140年の歩み

1876（明治9）年　開智学校内に「第17番中学校」
変則学校」開校
77（明治10）年　「第18番中学校」と改称
80（明治13）年　「公立松本中学校」と改称
83（明治16）年　「東筑摩中学校」と改称
84（明治17）年　「長野県中学校」松本支校となる
86（明治19）年　小林有也、長野県中学校長に就任
「長野県中学校」の本・支校すべてが松本町二の丸校舎に移転し、「長野県尋常中学校」と改称
93（明治26）年　長野、上田、飯田に支校設立
99（明治32）年　「長野県松本中学校」と改称
1914（大正3）年　小林有也校長逝去
22（大正11）年　現行の校歌制定
24（大正13）年　「私立夜間松本中学校」開校。大正15年から校舎を共用
27（昭和2）年　「私立夜間松本中学校」は「市立松本夜間中学校」となる
35（昭和10）年　松本市蟻ケ崎の新校舎に移転
48（昭和23）年　「長野県松本中学校」が旧制中学校としての歴史を閉じ「長野県松本深志高等学校」が発足。夜間中学校は「松本深志高等学校定時制」となる
56（昭和31）年　創立80周年記念式典
66（昭和41）年　「深志尚学会育英基金」創設
73（昭和48）年　創立90周年記念式典
定時制廃止
76（昭和51）年　創立100周年記念式典
「深志百年館」新築
85（昭和60）年　大体育館、音楽室を新築
86（昭和61）年　創立110周年記念式典
86～87（昭和61,62）年　第一棟大規模改修工事
96（平成8）年　創立120周年記念式典
2000（平成12）年　校舎竣工記念式典
（第一棟改修、第二・第三棟改築ほか）
02（平成14）年　管理普通教室棟（第一棟）と講堂が国の登録有形文化財となる
06（平成18）年　創立130周年記念式典
同窓会が「深志教育会館」を新築
09（平成21）年　講堂耐震改修工事
14（平成26）年　図書館耐震改修工事
16（平成28）年　創立140周年記念式典

記念事業

旧制松本中学・松本深志高校の卒業生でつくる深志同窓会では、創立140周年を記念して、さまざまな事業を行っています。

記念式典

創立140周年記念式典

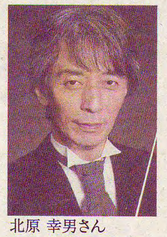
■期日：10月15日（土）午前11時
■会場：松本深志高校　大体育館（松本市蟻ケ崎）

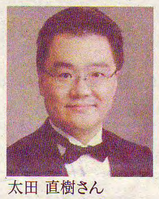
演奏会

松本深志高等学校創立140周年記念 志音会演奏会

音楽部OBと現役生を中心に、吹奏楽部OBなども加わった、オーケストラと合唱からなる「志音会」は、幅広い年齢層で構成され、2年に1回のペースで演奏会を開催しています。今回は140年という大きな節目の年を記念して、指揮者に北原幸男さん（武蔵野音楽大学教授、宮内庁式部職楽部指揮者）、バリトンに深志OBで二期会会員の太田直樹さん、アルトに同じくOBのたぐちたみさんといったゲストを迎えて行います。

■日時：10月23日（日）午後2時開演
■会場：キッセイ文化ホール（県松本文化会館）大ホール（松本市水汲）
■演目：チャイコフスキー 交響曲第5番ホ短調 作品64、ハイドン　オラトリオ「天地創造」抜粋
■入場料：2000円


北原 幸男さん


太田 直樹さん

たぐち たみさん

美術展

松中・深志 師弟が駆け抜けた明治・大正・昭和　近代美術の幕開け
松本市美術館収蔵作品を中心とした物故作家作品展

明治時代、旧制松本中学で図画教師を務めた日本画家の武井真澄、その教え子で水彩画家の白山卓吉、洋画家宮坂勝ら、明治～昭和に松中、深志高に在籍した教師、生徒の作品を一堂に集めた美術展。同時に、歴代の「とんぼ祭」ポスター展、在校生作品展も開催しています。

■期間：10月16日（日）まで。午前9時～午後5時（16日は午後4時まで）
■会場：松本市美術館 市民ギャラリーA・B（松本市中央）
■入場料：無料

丸山 太郎

渡会 意士

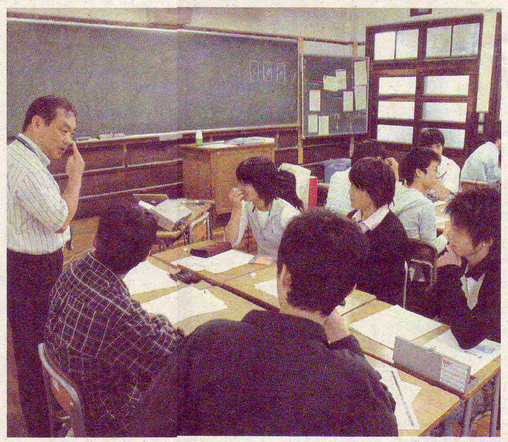
小林 邦

MATSUMOTO FUKASHI ANNIVERSARY

受け継がれる深志の魂

自治の精神

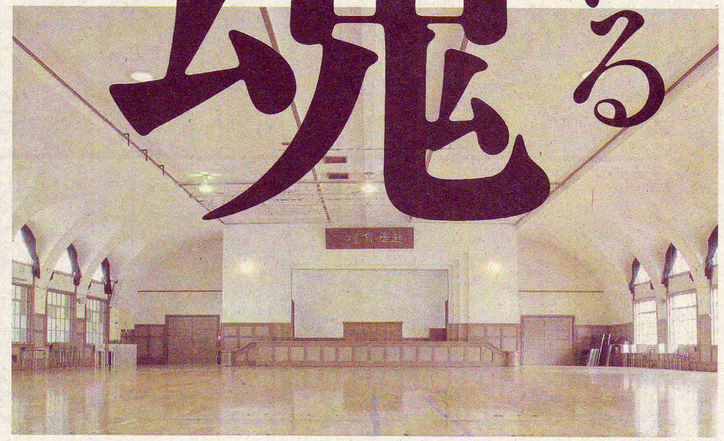
いたずらに生徒を圧迫することなく、生徒の行動についての判断は、生徒自身にできるだけまかせる。互いに理解を深めながら、自分たちのことはできるだけ自分たちで決める。権限を与えられるだけに責任も重く、それが自治の自覚を育むことにつながる。これこそが、松中・深志の校風である自治の精神だ。



長野県尋常中学校発足翌年の明治20年に設立された、生徒の全体会議である相談会、明治30年につくられた生徒間の風紀取締機関である矯風会、このふたつが生徒の自治機関として、伝統的な校風を育てる基礎となった。生徒の人格を認め、その自主的な活動を容認した小林有也校長の後ろ盾があった。

かなり広範にわたって自治を認められていたそれらの生徒活動は、相談会の決議を経なくてはならなかったし、矯風会の決定と指示をこえることができなかった。生徒の自治によって運営されていた良有会、披雲会、尚志社などの寄宿舎もあった。

松本中学・深志高校と長きにわたり、自学自習、自主自律、自治の実践者たらんとして、知性を磨き、体を鍛えることに精魂を傾け、豊かな心情をそだてきた自治の伝統の精神は、その後も生きた伝統として受け継がれてきている。



校歌の誕生秘話

松本中学校には、明治35年につくられた校歌があったが、歌われることなく忘れられていた。大正時代後半、新しい校歌を作ろうではないかと文芸部が提案し、生徒の全体会議である相談会が決定した。

大正11年4月下旬、旧校歌をもとに文芸部委員の松原威雄が、野球部の合宿所で作詞した。1番は学校の徽章の由来を説いて賛美し、2番は松中の生命というべき自治を謳歌し、3番では歴史過去、4番では現在を歌い、5番では未来に対する抱負を表現した。

東京音楽学校の岡野貞一に在京中の校長が作曲を依頼、7月23日に楽譜が送り届けられた。『校友』第67号（大正12年2月）に掲載された校歌は、松本深志高校校歌として今も歌い継がれている。

校歌

松原威雄 作詞
岡野貞一 作曲

一、蒼溟遠き波の涯　黒潮たぎる絶東に
たてり大和の秋津洲　栄光の歴史は三千年
そのうるはしき名を負へる　蜻蛉男児に栄えあれ

二、時の流れは強うして　この世の旅は長けれど
自治を生命の若人は　強き「力」に生くるかな
山河秀でし此の郷に　礎固し我が母校

三、暁こめて鳴り出でし　時代の鐘を身にしめて
世の先駆者の名に恥ぢず　心を磨き身を鍛へ
移らふ星を数へて　守るも久し深志城

四、朝に仰ぐ槍嶽に　深き真理を探りつゝ
夕筑摩の野を行けば　胸に充ちくる想華あり
鳴呼学術の香に集ふ　契りも深き友九百

五、古城空しく苔古りて　濁世の波は高けれど
清き心のひとすぢに　志あるますらをは
自治の大旗翻へし　前途遥かに望む哉

資料展示

写真・資料でたどる 松中・深志140年の歩み

創立から現在までの歴史をたどる、貴重な資料を展示します。

■期日：10月15日（土）、16日（日）。いずれも午前9時～午後5時
■会場：深志教育会館（松本深志高校から徒歩1分）

講演会

輝く女性たちが語る

フリーのサッカーライター・元川悦子さん（38回卒）をお招きして、アナウンサーとして活躍中の野尻英恵さん（61回卒）の司会でお話を伺いました。

■10月1日実施

チャリティー

140周年記念 チャリティーゴルフコンペ

更なる同窓会活動の活発化と年次間を超えた会員相互の交流促進を図るため、ゴルフコンペを開催しました。集まったご寄附は同窓会を通し母校支援のために使わせていただきます。

■10月14日実施

記念出版

140年の歴史を綴る「深志140年のあゆみ」「トンボのめがね」

「深志140年のあゆみ」は、創立から現在までの歴史を、年表と概要説明でたどります。同窓会や学校に保存されている貴重な資料、写真も掲載しています。

「トンボのめがね」は、深志同窓会公式ホームページで月2回掲載している、OBの小松芳郎さん、伊藤芳郎さんによるエッセーをまとめています。

記念販売

「同窓会名簿」刊行

■1冊5000円

■同窓生が蔵元を務める酒蔵9蔵による創立140周年記念の純米酒（3本セットで5000円）
■「深志が深志たる所以」DVD（2500円）、ブルーレイ（3500円）発売

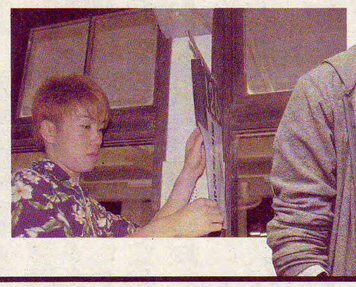
各事業の問い合わせは、深志同窓会（☎0263・39・2081）へ。記念事業の詳細は、同窓会の公式ホームページ（http://www.fukashi-alumni.org/）に掲載されています。

生徒が語る深志高校の今

140年の歴史を刻んできた松本深志高校。現在は1000人近くの生徒たちが在籍し、多くの生徒が生徒会や部活動といった特別活動に打ち込んでいます。それぞれの代表者に、活動の様子を紹介してもらいました。現役の深志生たちが語る「今」に、長い伝統と新しいチャレンジが感じられます。

生徒会

生徒会長　塚原　裕樹



今、社会情勢と140年という歳月に鑑みるに、深志の学び舎で過ごした先人たちによって紡がれてきた悠久の歴史に感嘆を禁じ得ません。明治初期からの激動の140年間、旧制松本中学からの松本深志高校へと変遷する中で、この学舎は社会を牽引する優秀な人材を輩出してきました。この時代、地元に貢献する人物が求められています。私たちは、時代のニーズ、その時々の時局に適した人物として社会で活躍するべく、日々学校生活に邁進しています。

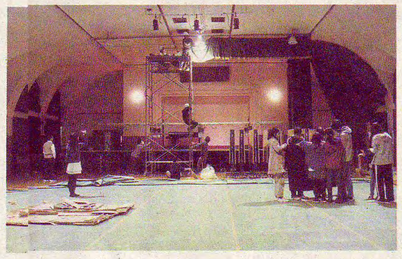
応援団管理委員会

応援団長　大野田　悟之

この春、伝統ある野球応援の形式を一部変更しました。少し話題になったようですが、「現在の価値」の判断に伝統や歴史の長短はさほど関係ありません。「伝統」だからといって過剰に重視したり軽視したりしては本質を見失ってしまいます。では本質とは何か。その答えのひとつが自分たちの場合はこの改革として現したのです。

舞台装置設置委員会

舞台装置委員長（舞装大将）高梨　樹



舞台装置設置委員会は深志にしか存在せず、大将と呼ばれる委員長の下、軽音楽部等四つの部活動で構成されています。自分達の立つステージは自分達で作るという信念で、文化祭や卒業式の会場準備等を行っています。

大将を降りた今、後輩たちに願うのは「深志の文化・妥協なきステージ作りの伝統」の存続です。

運動協議会

山岳部

部長　塩原　聖也

もうすぐ創部100周年を迎える山岳部は、安全第一を目標に全員がそれぞれの楽しみ方で山に登っています。友達と話すため、頂上に行くため、山でお菓子を食べるため、下山をするため…個性豊かなメンバーが集まっています。

男子バスケットボール部

部長・キャプテン　藤倉　朋矢

僕達男子バスケットボール部は、常に全力でプレーをし、「走る」バスケットをしています。そんな僕達の目標は「公立高校ナンバー1」です。これからもチーム一丸となり、目標を達成出来る様に努力していきたいと思います。

空手道部

部長　宮崎　華

空手道部です。部員が1年生2人と少なく、あまり活動はできていませんが、来年は部員数を増やし、大会に出場することが目標です。早く仲間と楽しく、時に涙して、切磋琢磨し合える、そんな部を作りたいです。

女子バスケットボール部

部長　腰原　美紅

深志女バスは、1年生5人、2年生6人で活動しています。人数は少ないですがとても仲が良く、スピードのあるチームプレーができるよう、日々の練習に励んでいます。「県大会出場」に向け頑張ります。

男子バレーボール部

部長　宮崎　直人

僕たち男子バレーボール部は2年生5人、1年生8人、マネージャー2人の計15人で「県大会で1勝する」を目標に日々練習しています。大会で自分達のバレーができるように、一人一人しっかり力をつけていきたいです。

弓道部

部長　アントワーヌ　龍一

弓道部は、上位大会出場を目標に、"勝ちにいく"ということで、普段の弓と矢を使った的前での練習にくわえて、ランニングや筋トレなどの新しい試みもしながら日々大会に向かって活動しています。

女子バレーボール部

部長　林　明香里

全部員数3人。バレーボールは6人で行うスポーツなので、当然試合にも出られません。このような状況になってからバレーが出来る有り難さを感じています。その感謝の気持ちと情熱を持って私たちは日々活動しています。

ソフトテニス部

部長　北原　響

私たちソフトテニス部は、来春のインターハイ予選に向けて、日々練習を積み重ねています。今は基礎練習を主に、冬は体作りを本格的にやっていきます。今、自分たちに足りない物を、部員全員で切磋琢磨しています。

剣道部

主将　金内　俊

私たち剣道部は7人の部員で日々稽古に励んでいます。過去の県総体では準優勝2回、3位2回と全国へ最も近い部活です。長い歴史の中で多くの先輩方に支えられ活動できることに感謝をし、この先も努力を続けます。

水泳部

部長　林　航輔

結束力の面ではやや劣りますが和気あいあいと活動しています。競泳は一発勝負の世界なので、一瞬の体の動きの違いで結果が大きく左右されます。そのわずかな動きを探求し、目標に向かって日々根限り努力しています。

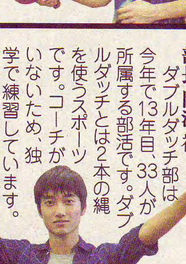
男子硬式庭球部

部長　松下　真大

1年2年合わせ計22人で浅間にある庭球場で日々練習をしています。高校からテニスを始めた人がほとんどですが、新人戦では県大会に出場することができました。みんなで切磋琢磨し、進歩していきたいと思います。

卓球部

部長　田中　友浩



卓球部は2年生13名、1年生7人で日々の活動に取り組んでいます。特別なことはしていません。一人ひとりがただ心に課題を見つけ、練習しているだけです。一つでも多く勝てるよう日々精進していきたいです。

野球部

主将　髙山　起

僕たち野球部は、蜻蛉の校章を胸にしたユニフォームを着て『自ら考えてやる野球』をモットーに日々の練習に励んでいます。"蜻蛉は大空をめざす"がチームスローガン。夢の大舞台で空高く舞い上がるのが目標です。

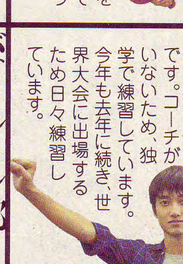
サッカー部

キャプテン　降籏　唯斗

サッカー部はOB会の皆様に支援を頂き、素晴らしい環境でやらせてもらえている事への感謝の気持ちを忘れずに、相手に気持ちで負けないチーム作りをし、一つでも多くの勝利が掴めるように頑張っています。

ダブルダッチ部

部長　岡澤　礼



ダブルダッチ部は今年で13年目、33人が所属する部活です。ダブルダッチとは2本の縄を使うスポーツです。コーチがいないため独学で練習しています。今年も去年に続き、世界大会に出場するため日々練習しています。

バドミントン部

部長　横山　峻平

バドミントン部は週6日練習しています。限られた練習時間の中で結果を出さなければならないのですが、最近はあまり良い結果を残せていません。勝つために何をすべきかをそれぞれが考えて、がんばっていきたいです。

生徒が語る深志高校の力

学芸協議会

陸上部
部長 小池 寿輝

我が陸上部は1年生13人、2年生13人で活動しています。個の要素の強い競技ではありますが、チーム深志として全体の向上に一丸となり取り組んでいます。OBの天馬会のサポートにも感謝し、更なる記録更新を目指し精進します。

アコギ部
部長 春宮 七咲

アコギ部では、部員20人で日々アコースティックギターの練習に勤しんでいます。曲のジャンルや奏法は様々で、アットホームな雰囲気の中、楽しく活動しています。文化祭では発表もやるので、ぜひお越しください。

香道部
部長 大月 里音

香道部は、日本全国の高校の中で唯一松本深志高校にしかないとても珍しい部活動です。

香道は、茶道・華道と同じく日本古来のもので、香りを「聞き」あてて楽しむ芸道です。日本の伝統も部の伝統も守り続けたいです。

書道部
部長 髙原 葵

書道部は現在2年生1人、1年生4人の計5人で活動しています。少ない人数ではありますが各自で目標に向かって日々練習を重ねています。今年度の県書道展では金賞、銀賞、銅賞を受賞しました。

地歴会
部長 羽生 瑞紀

主に政治や歴史に関わるテーマを個人で決め研究・調査を行っています。政治的話題は現況と照らし合わせ、歴史は授業でも触れないような奥深い所まで追究できるのが地歴会の魅力で醍醐味です。更に深めていこうと思います。

Qu:iz研究会
部長 塩島 拓朗

僕達Qu:iz研究会は早押し機を使ったクイズをしています。問題集や、部員の自作してきた問題を解いて、より早い押しと正確な答えを目指しています。互いに高みを目指して切磋琢磨している、とても良いクラブです。

フットサル部
部長 内藤 大地

フットサル部は、週に数回のペースで地域の体育館を借りて活動しています。秋には市内の学校が集うリーグ戦にも参加しています。フットサルの技術の向上と部員同士の盛んな交流、この二つの目標を掲げ頑張ります。

英語研究会
部長 鈴木 麻祐

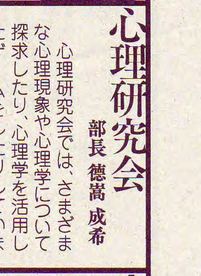
私達は、英文暗唱大会や他校の英語部との交流キャンプなど、幅広く活動しています。中でも力を入れているのは英語ディベートです。英語力だけでなく相手を説得できるような論理的思考も磨くべく練習をしています。

棋道部
部長 宮坂 元樹

棋道部では、部員全員が仲良く和気藹々と将棋や囲碁を楽しんでいます。どちらも、毎年全国大会へ出る実力があり、今年も、将棋と囲碁の両方で全国大会へ出場ができました。さらに実力を高めあっていこうと思います。

心理研究会
部長 徳嵩 成希

心理研究会では、さまざまな心理現象や心理学について探求したり、心理学を活用したゲームをしたりしています。文化祭では心理学を使った企画により多くの人達に喜んで頂きました。今後も更に取り組んでいきたいです。



鉄道研究会
部長 寺川 佳輝

鉄道研究会は、2年生6人、1年生1人の計7人で活動しています。基本的に鉄道に関しては、「趣味」の領域となるので、活動内容も比較的のんびりとしています。こんな部活ですが、どうぞよろしくお願いします。

家庭生活愛好会
部長 鈴木 志帆

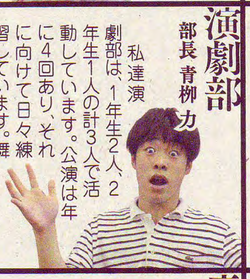
家庭生活愛好会は、とんぼ祭に向けて昨年は和をテーマに全員でドレスを、また個人では個性を生かし質の高い衣装を作りました。その他、イベント毎にお菓子や料理を美味しく可愛く作り、楽しく活動しています。

女子硬式庭球部
部長 久島 菜々子

深志女子硬式庭球部は1年生3人、2年生2人で活動しています。部員は少ないですが、楽しく、かつ真剣に練習しています。上の大会に進めるように全員で団結してこれからも日々の練習に励んでいきたいです。

演劇部
部長 青柳 力

私達演劇部は、1年生2人、2年生1人の計3人で活動しています。公演は年に4回あり、それに向けて日々練習しています。舞台上に立つと緊張はしますが、自分ではない誰かになりきるのは、とても楽しいです！



ゴーロア会
部長 矢島 怜奈

フランス語研究会であるゴーロア会では、仏検合格を目指してフランス語のレッスンを受けると共に、フランスのお菓子作りや映画鑑賞も行っていて、これらを通してフランスの文化や歴史について学んでいます。

吹奏楽部
部長 桐井 優実

私達吹奏楽部は主に夏のコンクールに向けて活動しています。個性的なメンバーが一つの良い演奏をつくりあげるため、日々練習しています。また毎年、6月にはキッセイ文化ホールにて定期演奏会を行っています。

博物會
部長 鎌田 康太郎

所謂生物部である博物會は、深志高校の中でも有数の長い歴史を持つ部活動です。何代もの先輩方が積み重ねてきた歴史を基に、探鳥會や戸隠高原自然観察会等身の回りの自然と触れ合う活動を行っています。

音楽部
部長 花岡 大地

音楽部は合唱班と室内楽班に分かれて日々練習しています。コンクールや演奏会、有志演奏会など年間を通して幅広い活動をおこなっています。ジャンルを問わずにさまざまな曲でよりよい音楽の追究をしています。

ギター部
部長 清沢 一真

私たちギター部は、主に個人練習を基盤としています。それぞれのバンドが自主的に校外ライブなどに参加しています。とんぼ祭やクリスマスコンサートの時には、舞装として全員が心を込めて会場設営を行います。

推理・SF小説研究会
部長 蒔田 龍一朗

推理・SF小説研究会では、主に推理・SF関連の小説執筆をしています。執筆した作品は、年に4回発刊する部誌に掲載します。作品は部員以外からも募集しています。また、作品の批評会も予定しています。

物理研究会
部長 林田 夕夏

私たち物理研究会は毎週月曜日に各自で研究をしています。また、たまに物理関連の施設の見学や研究発表、イベントへの参加もします。とんぼ祭では展示発表をしています。部員は少ないですが、楽しく活動しています。

ダンス部
部長 有賀 留那

ダンス部は1年生12人、2年生9人の総勢21人で活動しています。放課後の練習や多くのイベント・校内発表などを通して日々技術を磨いています。現在は総文祭に向けて部員一丸となって目標のため努力中です。

茶道部
部長 橋本 和奏

私たち茶道部は、部員20人、良有館にて週1回の部活を楽しみにして活動しています。3人の先生を講師にお招きし、お稽古していただいています。とんぼ祭では、お茶席を設け、日頃の練習の成果を発表しています。

化学会
部長 高橋 悠汰

化学会では自分の研究に合わせた実験や、とんぼ祭での実演の準備をしています。他にもとんぼ祭の「大行事である「キャンドルアート」という炎色反応を利用したアートをつくっています。とても仲のよいクラブです。

地学会
会長 藤澤 彩圭

私達地学会は、天文班、地質班、気象班に分かれ天体、化石、雲など自分達で研究テーマを決め活動しています。県内では珍しく天体ドームがある高校なので、ドームを有効に使って研究を進めていきたいです。

文学部
部長 福岡 成美

文学部は、個人で小説、詩等の作品を書くほか、全体では互いの作品についての講評会等を開いています。部誌は年4回発行、中でも「城門」は現在57号まで続くものです。次号発行に向け、文学部は自由に創作します。

軽音楽部
部長 近藤 圭

軽音楽部は部員21人と、外部からお越しいただいている2人の講師で活動しています。学校の文化祭やクリスマスコンサート等での演奏に加え、他県で行われるジャズフェスティバルにも参加させていただいています。

アカシア会
部長 酒井 勇輝

アカシア会は深志高校の「美術部」です。主な活動は、アクリル絵画を中心とした作品の制作、学美展の出展です。夏期休業の時には、部員皆で他県の美術館の見学等、活動の場を広げ制作に生かしています。

華道部
部長 春山 紗矢佳

毎週水曜日に講師の先生をお招きして、四季折々の花を生けています。とんぼ祭では個人作品に加え、竹を使った壮大な全体作品にも挑戦しました。季節を感じ、日本文化にも触れられる貴重な時間を楽しんでいます。

写真研究会
部長 今村 美月

写真研究会では写真展への出展などの他に特色として白黒写真があります。フィルムカメラで撮影した写真を校内にある暗室にて昔ながらのやり方で現像しています。歴代受け継がれてきたこの技術を残していきたいです。

数学研究会
部長 宮下 陸矢

現在、部員9人で活動しています。数独や各自が持ち寄った難易度の高い問題に日々挑戦し続け、高い思考力を養っています。とんぼ祭では、発表・展示の他、衆知を集めピタゴラ装置の製作を行っています。

漫画研究会
部長 李 華蓉

漫画を描くというのは一見簡単そうで難しいものです。画力だけでなく文章力等、他にも技能がいります。1年でたった5回しか部誌を発行しませんが、一回一回丁寧に取り組み、能力向上に努めています。

特撮ヒーロー研究会
部長 北澤 賢汰

特撮ヒーロー研究会では、主にとんぼ祭で、ヒーローショーを行ったり玩具やフィギュアの展示をしています。最近では、特撮ヒーロー研究会を紹介するドラマ風の映像作品を製作するという新たな試みも行っています。

昭和22年、野球部が夏の甲子園大会に出場した時の記念バッジほか